

## 茨城大学同窓会連合会会報

2024.3  
第18号

2023年ホームカミングデー

## 自ら変化できるポテンシャル

茨城大学同窓会連合会  
会長 杉田 龍二

我々を取り巻く環境は常に激変しております。企業や産業も大きく変化しており、例えば、VTR（ビデオテープレコーダー）産業や半導体産業は、かつて世界を席巻しましたが、今やVTR産業は消滅し、半導体産業は国と外国企業の支援を受けて復活を図っている状況です。このような中で組織が生き延びるための必要条件は、変化できるポテンシャルを持つ、ということだと思えます。変化の大きい企業ほど成長しております。自ら変わらないものは生き残れません。

茨城大学も大きく変化しており、2024年度から文理横断型の新しい組織である地域未来共創学環が開設されます。また、現在注目されているデータサイエンスやジェネレーティブAIに対応できる卒業生を増やすべく、その関連学科・専攻の学生数を増加します。

同窓会組織も、5学部の同窓会が連携した同窓会連合会を校友会に移行しようと取り組んでおります。今後、同窓会と大学との連携の強化、情報の共有などを更に推し進めて参ります。なお最後に、2023年に全国公開された映画「Winny」を紹介しておきたいと思えます。この映画は茨城大学情報工学科・情報工学専攻出身の、天才と呼ばれたソフトウェア技術者が主人公となっております。彼は、ネット社会を変革するファイル交換ソフトを、約20年前に世界に先駆けて開発・公開し、裁判で戦い勝利を勝ち取りました。このような卒業生がいたことは同窓会の誇りであり、我々に勇気と元気を与えるものだと思います。

## 次の75周年から、さらに150周年に向かって

茨城大学  
学長 太田 寛行

茨城大学は、今年、創立75周年、さらに最も古いルーツ校である拡充師範学校の創設から数えて創基150周年という節目を迎え、新たな75年、150年に向かって歩みを始めます。その記念すべき年の4月に、まず「地域未来共創学環」がスタートします。この教育カリキュラムの特色である“コオプ実習”では、地域の企業や自治体と連携して新たな教育の仕組みを展開させていきます。2つ目は、学生支援のバージョンアップです。本学は、4階層からなる「教育の質保証システム」を構築してきました。次なる挑戦は、学生自身の「質保証」のアクションを支えることです。多様な「学生の自己実現（なりたい自分になる）」を実現できるように、学生の将来像づくりを支え、学生生活だけでなく、学業に関する悩みの解決をこれまで以上に支援する統合的な組織をつくります。3つ目は、「サステナビリティ学の拠点」として国際的な存在感を示すことです。これまでの「サステナビリティ学」の教育研究を深化させ、気候レジリエント開発に向けた“アジア地域総合気候変動科学”の共創に取り組みます。

私たちは、今、戦争が拡大する混乱の時代を生きています。一刻も早く戦争を終結させることは、世界のだれもが持つ思いのほうです。本学の全教職員は、そのことを信じて、平和を希求する心を持ち続けて、大学業務にあたっていきます。今後とも、同窓生の皆さまのご支援をお願いするとともに、同窓会連合会の発展を祈念しております。

## 同窓会交流コーナー

### 文理・人文学部同窓会の近況報告

文理・人文学部同窓会副会長兼幹事長 鈴木 章史

昨年度は、初めての試みとして、総会開催を茨苑祭とホームカミングデーに合わせて、11月にしました。また、会場も人文社会科学部の10番教室とするなど大学や人文社会科学部のご協力を得て、マスク着用や手指消毒など感染防止対策をしながらの開催でした。



第38回理事会出席者の記念写真

今年度は、理事会の開催となりましたので11月11日(土)に、以前のように市内のホテルで開きました。理事会では、令和4年度の事業活動報告及び決算報告、令和5年度の事業計画及び予算について承認されました。その後、従来であれば、理事会後に懇親会を行っておりましたが、コロナ禍を考慮し、出席者全員で記念写真を撮り、1時間程度の昼食会とし、解散いたしました。

### 教育学部同窓会の近況報告

教育学部同窓会幹事長 齋藤 英敏

令和4年度は幹事会・総会を対面で6月25日(日)に開催いたしました。小島睦新会長のもと予算審議や事業計画について話し合いました。会の同意を経て、今年度も予算から教育学部に教員採用試験対策等の費用として100万円を拠出しました。総会后、教育学部を退職された4名の先生をお迎えして祝賀会を行いました。また同窓会では会のロゴマークを作成し、そのロゴを入れたクリアファイルも作成しました(図参照)。今年度の卒業生にまず配布をする予定であります。また、現在同窓会ホームページを制作中で、新年度中には公開できる予定ですのでお待ちください。



茨城大学  
教育学部同窓会

ロゴとそのロゴが入ったクリアファイル



### 理学部同窓会の近況報告

理学部同窓会会長 鈴木 忠和

2023年度・同窓会常任幹事会の活動方針の承認をいただくための幹事会が2023年6月17日(土)、理学部インタービュールームにおいて3年ぶりに対面式で開催されました。当日は30名の幹事の方々のご出席をいただき、前年度の活動報告を含め常任幹事会提案事項のすべてに承認をいただくことができました。会議終了後岡田名誉会長(理学部長)から「理学部の現状」と題する講演をいただきました。講演の中で名誉会長は大学院博士後期課程における定員確保の問題について触れられました。この問題については同窓会としても共有すべきことと認識し、何らかの形で理学部と協力していきたいと思っております。



2023年度・幹事会集合写真

幹事会において承認をいただいた2023年度同窓会活動については、会報26号の発行、同窓会会員名簿保守・更新、ホームページの運用など順調に推移しております。また、支部活動についても京水会(東京支部)が11月18日(土)に、理水会(水戸支部)が11月11日(土)に3年ぶりに開催され、幹事会の対面式での開催と合わせて常任幹事会活動の定常化が図られております

### 多賀工業会(工学系同窓会)の近況報告

多賀工業会理事 清水 淳

2023年度の代表的な活動として、5月に多賀工業会報66号(A4カラー、110ページ)を発行し、新たに「奨学一時金」の第1号の助成を受けた6名の院生による国際会議体験記を掲載しました。7月1日(土)には、多賀工

業会館で対面では4年ぶりとなる理事会を開催し、本部や支部から集まった理事同士が久方ぶりの再会を喜び合いました。11月4日(土)のこうがく祭では、多賀工業会館で例年に倣い写真・絵画展(写真上段参照)を開催し、多くのギャラリーが興味深く閲覧する様子が見られました。昨年に続きOB・OGによる学生向け懇談会(写真下段)も開催し、就活を控えた学生からの真剣な質問に丁寧に受け答える光景が見られました。これらのこうがく祭の様子は、多賀工業会のInstagramにも掲載されておりますので、ぜひご覧ください。このように、コロナ禍からの脱却を果たした多賀工業会の活動に対し、益々のご支援をよろしくお願い申し上げます。



こうがく祭の写真・絵画展(上段)と学生向けOB・OG懇談会(下段)の様子

## 農学部同窓会の近況報告

農学部同窓会幹事長 小松崎 将一

令和4年度から令和5年度にかけて、茨城大学農学部同窓会は第2回及び第3回の学生表彰を行いました。令和5年3月31日(金)に行われた令和4年度農学部同窓会表彰学生表彰式(後期)では、学部2年次生の7名が受賞しました。受賞者代表学生は以下のようにお礼のことばを述べました。「私たちは学生生活を支えてくださった皆様に感謝しています。今後は、この2年間で身につけた知識を活かして、コロナ禍で制約されていたアクティ



令和5年度茨城大学農学部同窓会表彰学生表彰式

ブラーニングを積極的に行い、更なる努力を続けていきます。」また、令和6年1月31日(水)の令和5年度農学部同窓会表彰学生表彰式(前期)では、学部4年生の7名と修士1年生の7名が受賞しました。授賞式で中村会長は、「日頃の皆様の努力が評価されたことを心からお祝い申し上げます。この受賞を機に、同窓会が皆様の学生生活をサポートし続けられるよう努力してまいります。」とエールを送られました。

## 大学トピックス

### 学生団体応援イベント「Ibaraki University Giving Campaign 2023」を実施

令和5年6月及び11月に学生団体の課外活動の応援を目的として、昨年度に続きオンラインチャリティーイベント「Ibaraki University Giving Campaign 2023」を開催しました。今年度は2回開催し、70以上の学生団体が参加し、延べ15,000人以上の方から応援や温かなメッセージをいただき、大きな盛り上がりとなりました。

本イベントで集まった寄附金は、学生団体への支援等に活用させていただきます。



多くの応援をいただきありがとうございました。

### 「茨城大学ホームカミングデー2023」を開催

令和5年11月11日(土)に「茨城大学ホームカミングデー2023」が茨城大学の主催、同窓会連合会の共催で開催され、太田学長による大学の近況報告、学長特別補佐(SDGs推進)によるSDGsに関する特別講演の後、オンラインチャリティーイベントに参加した学生代表からの報告などが行われました。当日は、80名以上の方にご参加いただき、盛況のうちに幕を閉じました。

また、水戸キャンパスでの学園祭「茨苑祭」と同時開催となりましたので、本プログラムの終了後には茨苑祭を楽しんでいる方もいらっしゃいました。



茨苑祭との同時開催



# Next Step

## 茨城大学のサステイナビリティ学の

## 展開に向けたご支援のお願い

— 茨城大学基金を通じた支援、協力のお願い —

日頃より、皆さまには、茨城大学の活動に対するご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本学は、「イバダイ・ビジョン2030」を2021年3月に発表し、「自律的でレジリエントな地域が基盤となる持続可能な社会の実現」を目指し、3つの行動方針、①「世界の俯瞰的理解と多様な専門分野の知の追究」、②「多様な主体を結びつける結節点としての機能強化」、③「持続可能な環境づくりのための先進的行動の展開」を宣言しました。この3つの行動方針を横断して貫く学問分野として、「サステナビリティ学」の構築に取り組んでいます。

本学の「サステナビリティ学」の始まりを探れば、創立の年1949年に開設された「涸沼研究室」にまで遡ります。その後、湖沼生態系の研究から気候変動の問題を含めた“地球システム”の研究に展開し、政治と経済の“社会システム”と、ライフスタイルや健康を考える“人間システム”という3つのシステムを統合的に扱う研究分野として「サステナビリティ学」を構築してきました。その実践として、研究面では2006年に、“地球変動適応科学研究機関 (ICAS)”を設置し、教育面では、全学的な授業として“サステナビリティ学入門”を開講しています。このような教育研究の展開として、2020年には、ICASを“地球・地域環境共創機構 (GLEC)”に拡充し、同年、“気候変動アクション環境大臣表彰”の受賞に至りました。



サステナビリティにおける大学の貢献度を示すランキングとされる「Times Higher Education (THE)」から発表された、SDGsの17ゴールごとのインパクトランキングにおいて、下記の4項目で国内大学最高位を獲得いたしました。



さらに、2023年4月に立ち上げた“茨城大学カーボンリサイクルエネルギー研究センター (CRERC)”では、“脱炭素”という、産業革命以来の文明の転換をももたらすような目標に対し、“カーボンリサイクル”という野心的なコンセプトを掲げ、二酸化炭素の“回収”、それを再利用した燃料の“合成”、高効率で安全な“利用”というサイクルを一気通貫して研究できるという、国内でも稀有な環境の構築を進めています。また、2024年度からは、教育面で、各学士課程の履修と並行して学べる横断的な教育プログラムの一つとして、“サステナビリティ学教育プログラム”をスタートさせます。

以上に述べましたように、サステナビリティ学の展開は、イバダイ・ビジョン2030の達成に向けた“フラッグシップ”な取組であり、茨城大学基金を通して、皆様方からのご支援、ご協力を賜ることで、皆様方と連携して「自律的でレジリエントな地域が基盤となる持続可能な社会の実現」が図られると考えております。

どうぞご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

茨城大学 学長

太田寛行

# ご寄附の使途・支援事業

Next Step

## 一般基金

茨城大学における教育・研究及び社会連携、学生生活環境整備など本学で行われる様々な活動をご支援いただくための基金となっております。

また、各キャンパス、学部へのご支援や附属学校園へのご支援など、支援先のご指定がある場合は、寄附者のご意向に沿って活用させていただきます。

### 主な支援事業

- ①教育研究支援 ラーニングcommons等の自習スペースやキャンパス内施設等の環境整備など
- ②社会連携支援 アントレプレナーシップ教育プログラムへの支援など
- ③学生生活環境支援 課外活動施設の改修整備の支援など
- ④附属学校園支援 児童・生徒の教育活動の充実化を目的とした各種活動の支援など



### 修学支援事業基金 ※税額控除対象基金

経済的事情により学業の継続が難しい学生を支援するための基金です。社会情勢の変化や家計の急変などによって、生活困窮に陥り、自らが望む学修活動に困難を来している学生たちのために、経済的な支援を行っています。



### 研究等支援事業基金 ※税額控除対象基金

学生やポストク等の若手研究者に対する研究支援や研究者としての能力向上を目的とした支援のための基金です。安定した研究活動を行うための支援、研究成果を発表するために必要な経費や、異なる分野や研究実績のある研究者との交流を促進するための費用などの支援を行っています。

### 国際交流・留学生支援基金

国際社会では、自らの考えを自らの言葉で話す力が求められます。より多くの学生が、世界に飛び出し、積極性と表現力を身に付けられるよう、学生の国際交流・留学の機会の支援を行っています。

また、本学に学ぶ機会を求めている外国人留学生が、安心して学修できる環境を整えるとともに、日本での生活全般について支援を行っています。

### 図書資料および学習環境事業基金

大学図書館は、「学術情報の基地」という重要な役割を果たしています。本学図書館では、分館を含め、100万冊を超える図書・雑誌を所蔵し、広く地域社会の皆様が開かれています。

本基金では、学生用図書や雑誌の更なる充実や情報社会に対応したふさわしいサービスの提供など、必要な環境整備の支援を行っています。

## 特定基金

# 様々な方法によるご寄附

Next Step

## 古本等(書籍、DVD、CD等)の売却によるご寄附

ご不要になった古本やCD・DVD、ゲームソフト等の売却により、その買い取り額をご寄附いただけます。買い取りは、全て提携企業の株バリューブックスによるチャリボンにて行いますので、古本等を大学に運搬する手間や売上の振込みも不要となります。5冊以上の売却で送料無料や自宅での引き取りも可能となります。

※ISBNのない本、百科事典、コンビニコミック、個人出版の本、マンガ雑誌、一般雑誌は取扱いきません。一部の専門書を除き、10年以上前(2010年以前)に出版された本のほとんどが寄附になりません。詳しくは、茨城大学基金ホームページ(裏表紙のお申込先)からお手続きをお願いします。

## 遺贈によるご寄附

遺贈とは、遺言書を作成し、ご自身が築かれてきた財産を相続人に限らず、特定の人や団体に贈る(寄附する)ことをいいます。財産の一部の受取人として茨城大学を指定することによって、ご遺産を本学の教育研究活動等に有効的に活用させていただきます。なお、ご遺贈いただいた財産について、相続税は課税されません。

遺贈をお考えの方は、本学提携の銀行をご紹介しますので、基金・同窓会課にご相談ください。

## 支援活動のご報告

これまでに茨城大学基金を活用し、実施した事業は、茨城大学基金ホームページにて、ご報告しております。

<https://www.ibaraki.ac.jp/fund/report/use/>



# 茨城大学基金賛助会員制度

Next Step

## 賛助会員制度とは?

茨城大学基金の賛助会員となり、継続的なご寄附(会費)を通じて本学をご支援いただく制度です。個人会員の方は、毎月1千円(年間1万2千円)以上から、法人・団体会員の方は、毎年1口・5万円からの金額でご入会いただくことができます。会員の方には、様々な特典をご用意しています。寄附金は、税制上の優遇措置を受けることもできます。茨城大学をより身近に感じていただくことができる制度です。

## 特典

入会いただいた皆様へ感謝の意を込めまして、茨大グッズや農学部産農産物の送付等、様々な特典をご用意しております。

※特典内容は、都合により予告なく内容を変更する場合があります。また、入会時期により、特典の発送時期が異なります。予めご了承ください。

会員区別	会費(年間寄附額)	主な特典
個人	1万2千円以上	茨大グッズ(Aコース)【入会時のみ】
		茨大カレンダー
	3万6千円以上	茨大グッズ(Bコース)【入会時のみ】
		茨大カレンダー、農学部産農産物(年1回)
	6万円以上	茨大グッズ(Cコース)【入会時のみ】
		茨大カレンダー、農学部産農産物(年2回)
法人 団体 (1口5万円)	5~45万円 (1口~9口)	茨大グッズ(A+Bコース)【入会時のみ】
		茨大カレンダー、基金ホームページへの企業ロゴ掲載
	50万円以上 (10口以上)	茨大グッズ(Cコース)【入会時のみ】
		茨大カレンダー、大学ホームページへの企業ロゴ掲載

## 賛助会員特典の例

(写真はイメージです)



茨大カレンダー(非売品)



茨大グッズ(Aコース)



茨大グッズ(Bコース)



茨大グッズ(Cコース)



農学部産農産物

## 賛助会員制度Q&A

### Q1 これまでのように賛助会に入会せずに継続寄附を続けることは可能ですか?

A1 これまでどおり、賛助会に入会せずに継続寄附をしていただくことも可能です。ただし、賛助会員制度の特典は、賛助会員制度へご入会いただいた場合のみとなります。

### Q2 寄附の使途は選べますか?

A2 一般基金と特定基金の全ての使途からお選びいただけます。詳細については、本パンフレットの「ご寄附の使途・支援事業」をご参照ください。

### Q3 茨城大学基金の顕彰制度の対象になりますか?

A3 賛助会員制度でのご寄附も通常のご寄附と同じように顕彰制度の対象となります。通常寄附も行っている方は、賛助会員制度との合計を累計額とさせていただきます。詳細については、本パンフレットの「ご寄附への感謝」をご参照ください。

### Q4 税制上の優遇措置は受けられますか?

A4 会費は寄附の扱いとなり、税制上の優遇措置が受けられます。詳細については、本パンフレットの「ご寄附による税制上の優遇措置について」をご参照ください。

### Q5 特典の農学部産農産物とはどのようなものですか?

A5 作付け状況により内容は変わりますが、その時々季節の野菜や果物等をお送りします。年1回の方は、4月~6月頃、年2回の方は、4月~6月頃および、10月~12月頃にお送りします。なお、送付時期は予定となりますことご了承ください。

## 茨城大学基金へのお申込・払込方法について

本学基金へのお申込は、茨城大学基金ホームページを利用した手続きが大変便利です。払込票を使ったコンビニエンスストアでの払込(30万円以内)、銀行振込やクレジットカード決済もご選択いただけます。インターネットを利用できない場合は、本書に添付された申込書に必要事項をご記入の上、のり付けし、そのままポストにご投函ください。後日コンビニエンスストアでご利用いただける払込票を郵送します(手数料無料)。

● 個人寄附の方：1,000円～ ● 法人寄附の方：10,000円～

お申込みは、こちらです。

茨城大学基金ホームページ

<https://www.ibaraki.ac.jp/fund/application>

茨城大学 基金

検索



## ご寄附による税制上の優遇措置について

### □ 個人寄附の方

#### 所得税の優遇措置

本学へのご寄附については、「寄附金控除」の対象となり、確定申告を行うことで、税制上の優遇措置を受けることができます。

寄附金控除には、「所得控除」と「税額控除」があります。「税額控除」は、本学の「修学支援事業基金」または「研究等支援事業基金」にご寄附をいただいた方に限り、控除を受けることができます。確定申告の際に、「所得控除」と「税額控除」のどちらか一方の有利な制度を選択することができます。

#### 所得控除※1

$$\begin{array}{c} \text{所得金額 (年収)} \\ - \\ \text{諸控除 (扶養控除等)} \\ + \\ \text{(寄附金控除) 寄附金額}^{\ast 2} - 2,000\text{円} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{税率} \\ \text{(所得に応じた率)} \end{array} = \text{所得税額}$$

#### 税額控除

$$\begin{array}{c} \text{所得金額 (年収)} \\ - \\ \text{諸控除 (扶養控除等)} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{税率} \\ \text{(所得に応じた率)} \end{array} - \begin{array}{c} \text{控除対象額}^{\ast 3} \\ \text{(寄附金額}^{\ast 2} - 2,000\text{円)} \\ \times 40\% \end{array} = \text{所得税額}$$

※1 所得控除は、茨城大学へのすべての寄附金が対象となります。 ※3 寄附金控除対象額は、その年の所得税額の25%が上限です。  
 ※2 控除対象となる寄附金額は、その年の総所得額等の40%が上限です。

#### 住民税の軽減※4

寄附をした翌年1月1日時点でお住まいの都道府県・市区町村が、条例で茨城大学を寄附金控除の対象法人として指定している場合※5、個人住民税額の寄附金税額控除を受けることができます。

**(寄附金額－2,000円) × 控除率(都道府県民税:4%、市区町村民税:6%)**

※4 控除を受けられる寄附金額は、総所得金額等の30%が上限です。  
 ※5 寄附金税額控除対象と指定されているかは、お住いの自治体のホームページをご確認いただくか、お近くの税務署にご確認ください。

### □ 法人寄附の方

法人税法上の全額損金算入が認められる指定寄附金として、法人の所得から控除されます。

## ～ご寄附への感謝～

本学基金では、ご寄附をいただいた皆様方に感謝の意を込めまして、寄附金額に応じた顕彰制度を設けております。

- ウェブサイトへの芳名掲載【全寄附者対象】※掲載希望者のみ
- 大学からの定期的な情報提供【全寄附者対象】
- 学長懇親会へのご招待【ゴールドカテゴリー対象】
- 記念品の贈呈【シルバーカテゴリー以上対象】
- 感謝状の贈呈【ブロンズカテゴリー以上対象】
- 寄附者銘板への芳名掲載【ブロンズカテゴリー以上対象】※掲載希望者のみ

	寄附金累計額	
	個人	法人・団体
ゴールド	100万円以上	500万円以上
シルバー	50万円～ 100万円未満	200万円～ 500万円未満
ブロンズ	10万円～ 50万円未満	50万円～ 200万円未満

お問合せ  
お申込

国立大学法人茨城大学 総務部 基金・同窓会課

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1

TEL: 029-228-8781 FAX: 029-228-8249

URL: <http://www.ibaraki.ac.jp/fund/> E-mail: [kikin@ml.ibaraki.ac.jp](mailto:kikin@ml.ibaraki.ac.jp)

